

2. 学生インタビューの結果

1) 方法

3連携大学の歯学部学生(計12名)に対して半構造化インタビュー(30分)を実施した。インタビューは、事前アンケート(自由記載)で得た情報を基に、授業の進め方、内容、IT教材の活用などについてより詳しく学生の意見や感想を聞くために行った。インタビューの実施とその質的な解析は岐阜大学医学部MEDC今福輪太郎先生に依頼した。

2) 結果

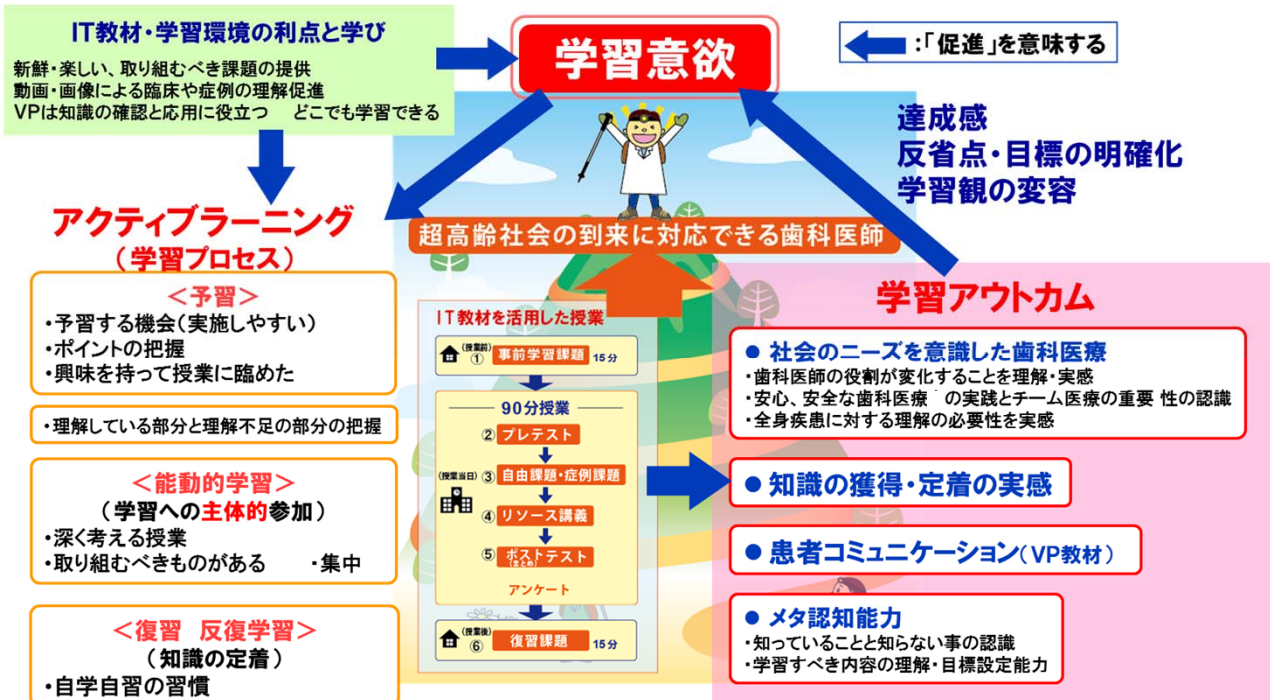
インタビューデータの質的分析により、「ITを活用した授業」での学びに関するカテゴリー関連図を作成した。下記の3つの大きな特徴を示している。

- ① 「IT教材・学習環境の利点」が、学生の「学習意欲」と「アクティブラーニング」の向上に寄与していた。「動画・画像教材」や「VP教材」「事前課題-授業(症例課題)-復習課題の教育手法」が学習に新鮮さや楽しさをもたらし、その結果、学習者の学習意欲向上につながった。また、IT教材や教育手法が臨床や症例の深い理解や学習への主体的参加を促したと考えられる。
- ② 事前学習課題、90分授業、復習課題という学習の進め方で学生は、普段よりも主体的に学習参加できたと実感していた。
- ③ 「学習アウトカム」として「社会のニーズを意識した歯科医療」「知識獲得・定着」の実感、「患者コミュニケーション」の実践、「メタ認知能力」の向上が挙げられた。授業後達成感を得て、学習の反省点や目標が明確になることで、将来の学習に対する意欲の向上や行動の変容が認められた。以上から、「ITを活用した本教育システム」は、生涯学習や専門職としての自己開発に必要な能力・姿勢を涵養する教育手法であることが示された。

学生インタビュー

- 対象：3大学3年生(step1), 4年生(step2)2名ずつ、計12名
- インタビュー：岐阜大学MEDC教員
- 方法：事前アンケート(記述式)を実施後、インタビュー(約20分)

学生インタビューとその質的解析結果



改善点

教材

- ・正答の許容範囲を広げてほしい(VP、まとめ)
- ・映像教材を増やしてほしい
- ・映像教材の患者演技のリアリティ

教員

- ・課題等に対するフィードバックをもう少しほしい
- ・双方型教育
- ・教員間のIT授業に対する意識の差を感じた

学習内容、活動

- ・他大学との交流を取り入れた学習内容 (他大学教員、学生)
- ・他大学の地域別の歯科医療の特色を知りたい
- ・多職種連携の内容をいれてほしい
- ・授業内でディスカッションやグループワークがあってもいい

課題

- ・事前課題：実施時期
- ・ポストテスト、復習用課題：同じ内容 実施時期をずらした方がよい
- ・授業内容とリンクできるような課題内容

スケジュール

- ・90分の授業時間では余裕がない
- ・実施時期を再検討してほしい(CBT前)

学習環境

- ・ネット環境の整備をしてほしい

改善点のまとめ

- 3大学の学生間交流
- オリエンテーションとフィードバックの充実
- 課題と授業の進め方(予習、復習を含む)の改善
- 臨床への活用



教育システムの質の向上
他大学への波及